

## W54a 「すざく」衛星搭載硬 X 線検出器広帯域全天モニタ部 (HXD-WAM) の現状 (IV)

杉田聡司 (青学大、理研)、山岡和貴、中川友進 (青学大)、田代信、浦田裕次、恩田香織、遠藤輝、鈴木正信、小高夏来、守上浩市 (埼玉大)、玉川徹、寺田幸功 (理研)、深沢泰司、大野雅功、高橋拓也、上原岳士、吉良知恵 (広島大)、中澤知洋、宮脇良平、榎戸輝揚 (東大)、牧島一夫 (東大、理研)、高橋忠幸、国分紀秀、鈴木素子 (JAXA/ISAS)、洪秀徴 (日大)、山内誠、園田絵里、前野将太、田中裕基、原龍児 (宮崎大)、田島宏康 (SLAC)

WAM(Wide-band All-sky Monitor) は、X 線天文衛星「すざく」搭載硬 X 線検出器 (Hard X-ray Detector) の外側に配置された巨大 BGO シールドである。それ自身広帯域全天モニタとして機能し広視野 (全天の半分)、大有効面積 ( $400 \text{ cm}^2 @ 1 \text{ MeV}$ )、広エネルギー帯域 (50–5000 keV) を誇る。WAM は 2005 年 7 月の打ち上げから順調に観測を続けており、2007 年 6 月現在、 $\gamma$  線バースト (GRB) と確定したものは 259 個、太陽フレアは 152 個、SGR 1806-20 からの中規模バーストなど多くの硬 X 線トランジェント現象を検出している。Swift/BAT、Wind/Konus、RHESSI や IPN(InterPlanetary Network) などとの協力による軌道上での検出器較正も進み、科学的成果を引き出す準備が整いつつある。今年会でも GRB、太陽フレア、ブラックホール連星に関する研究成果が報告される。また WAM のデータは「すざく」チームから公開されているツールによって解析することができ、既に光度曲線は専用の Web ページを通じて公開しており、スペクトルデータも公開する予定である。本講演では WAM 検出器の現状、硬 X 線トランジェント現象の観測結果、相互較正に関しての報告と共に、WAM データ公開のプロセスと解析手法を紹介する。